

パネル発表「抱っこすると、あったかいね」

千代田区立お茶の水幼稚園

1 動物との出会い（3歳児）

本園には、2匹のカメと2羽のウサギ、メダカやカタツムリなどがいます。3年保育、3学級のそれぞれの保育室に動物がいて、子どもたちが世話をしながら、ふれあいを楽しんでいます。

3歳児の保育室では、2匹のカメが人気者です。特に、えさを食べるのを見るのが大好きです。入園前の保護者から「うちの子は、幼稚園のカメが大好きで、カメに会いに、毎日、幼稚園へ行くんだ、と言っています。」という言葉がありました。都会の中で、自然に動物に触れる機会はなかなかありません。幼稚園に通うことで、動物とふれあう機会をもち、その中で、興味や関心をもつだけではなく、愛情をもって接するようになってほしいと考えています。

2 ウサギの世話（4歳児）

4歳児の保育室には、灰色で毛足の長い、ウサギの「リリーちゃん」がいます。子どもたちが、世話をするのですが、進級してしばらくは、「汚い」「くさい」などと世話をいやがる子どももいました。しかし、毎日の生活の中で、友達や教師がウサギの世話をする姿を見たり、自分の手からリリーちゃんが野菜を食べる経験をしたことで、大切に思う気持ちが生まれます。教師の「みんなもおうちが汚れると気持ち悪いよね。」「きれいになって、リリーちゃんも喜んでくれるよ。」といった働きかけもあり、徐々に、気持ちを込めてお世話をするようになりました。子どもたちは、抱っこするのが大好きで、「あたたかい」「毛がフワフワだよ」と生き物のぬくもりを実感しているようです。



3 学級の仲間としてのウサギ（5歳児）

幼稚園には、もう一匹、白毛で目の周りが黒い「ポップちゃん」という11歳のウサギがいます。ポップちゃんは、戸外のウサギ小屋で飼い、5歳児の子どもたちが、代々、世話を引き継いできました。小屋の中を水で流し、デッキブラシをかけるのは、5歳児にとって、年長児という誇りを感じる仕事でした。

高齢ということもあり、体調があまりよくはなかったのですが、今年の秋には、動くのがつらい様子がでてきたので、戸外のウサギ小屋から、保育室の中のケージに移しました。子どもたちは心配して、幼稚園に登園してくると、まず、ポップちゃんの様子を見てから遊び始めます。ポップちゃんは、子どもたちの心配が分かるかのように、お当番さんがもってくる野菜をバリバリとおいしそうに食べています。



4 動物の飼育を通して

動物が苦手だったり、ウンチを汚いと感じて世話をしたがいなかった子どもたちが、カメやウサギとのふれ合いを喜び、世話も楽しみながら進んで行うようになりました。

自分たちが用意したエサを喜んで食べる姿を見て、世話をする喜びを感じ、自分たちより小さく弱いものを守ろうとする気持ちも育っています。

住宅事情もあり、動物を飼うことのできる家庭は少なくなってきました。幼稚園で動物とかかわる体験を大切にしてほしいという保護者の願いも多く聞かれようになってきています。

今後も動物の飼育を通して、生命の大切さを感じ、愛おしく思う心を育てていきたいと考えています。